

No.15

2003. 6. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人
地球の木 理事会

■発行責任 横川芳江

■編集 広報部

■事務局 〒231-0032
横浜市中区不老町1-3-3
フェニックス関内2F

TEL 045-228-1575

FAX 045-228-1578

E-Mail: CZR10753@nifty.ne.jp

http://homepage1.nifty.com/EarthTree

CONTENTS

●Imagine—共に生きる世界を ●カンボジア調査報告 未来は自分たちでつくる ●ネパール調査報告 私たちの
蒔いた種は育っていた！ ●支援地から ●北朝鮮から 毛布をありがとうございました ●活動日誌 ●INFORMATION

2003年度、地球の木は新しい理事会と事務局体制でスタートしました。8年間理事長を務め、地球の木をリードしてこられた横川芳江さんほか、今日まで支えてくださった多くのみなさんに感謝を捧げつつ、新しい一歩を踏み出します。新しい理事会を代表し、これからの地球の木が目指すところを記したいと思います。

"Imagine" 私が大好きな歌です。「想像してごらん。国境のない世界を。むずかしいことじゃない。殺したり殺される理由も、宗教もない世界を。みんなが平和に暮らしている世界を」今ほどこの歌が胸にひびく時はないかもしれません。昨年度は平和な世界を築くことの難しさを思い知らされた年でした。戦争をくい止めようとする世界中の人々の大きなうねりにも関わらず、米英によるイラク攻撃があまり、日本政府も支援を表明しました。今こそ、世界の状況をしっかりと見つめる時です。

富と権力を持つものが支配する構図が世界のあらゆるところで見られます。地球の木が支援しているフィリピンのネグロス島でも、大地主と農民との戦いが続いています。スペインの統治時代に始まる地主と農民の貧富の差は、大プランテーションが導入されたアメリカの植民地時代にそのまま温存され、今に至っています。土地の権利を土地なし農民に移す作業は遅々として進まず、地主は絶大な力を発揮して権利を守ろうとします。

このような状況の中で私たちが支援する活動は、農民が土地の権利を得た後も自力で農業を続けていける力をつけるトレーニングです。"People's Power"—権力に対抗するには多くの声なき人が自分たちの置かれている状況を知り、行動していくことです。大きな力に飲み込まれるのではなく、自分たちで考え、自立していく意識や技術を身に付けることが一番求められていることです。他

のプロジェクトも同じ考えの元で進められています。

浪費型の社会に住み、資源・食料などを多く輸入している私たちは、貧富の差を作り出している加害者側にいます。ところが、急激に発展した新しい消費文化の中で、苦しんでいる人も多くいます。ものを大切にする価値観が徐々に薄れ、家族制度が崩れ、病んだ社会が問題にな

っています。加害者であると同時に私たちも開発による被害者なのです。自分で選び取った生活ではなく、知らず知らずコマーシャルや流行に左右された消費生活を送っているのではないのでしょうか。日本で必要とされるものもまた、"People's Power"だと思わず。

昨年始まった「えっ！シンプルな暮らしが平和につながるの？」キャンペーンには、化石燃料に依存しないライフスタイルの

提案がたくさん寄せられました。支援地の人たちと交流し、学び合い、私たちもシンプルな暮らしを実践しながら、共に生きるとはどういうことかを考えていきたいと思えます。

神奈川県内の小中高校でおこなってきた国際理解講座は、若い世代に、世界に生きる者としての責任を考えるきっかけを作ってきました。子どもたちと接していると、確かな手ごたえがあります。先生たちと共同でおこなうことにより、教育をする側にも理解を進めることができます。地域のあちこちで、学校に限らず様々な年齢層にこのような「地球市民」を育てることが私たちの夢です。各地域で参加する人が増え、広がっていけば世界が変わっていくと信じて。

"Imagine"「夢ばかり追っていると言うかも知れない。でも僕ひとりじゃない。いつの日か君も仲間になってくれるといいな。そうすれば世界はひとつになる」

*Imagine—1971年、作詞・作曲ジョン・レノン

Imagine 共に生きる世界を



理事長
丸谷士都子

未来は自分たちでつくる



スタッフや子ども達と共に

カンボジアチーム 横川 芳江

こどもたちの「今」を支える 「チャーロウアップルダイ」

(クメール語で木は育つ大地の恵みで)

カンボジアでは復興に向けて政治経済は大きく動いていますが、子どもたちを取り巻く環境は厳しい状況が続いています。人口の30%を5歳から14歳の学齢期の子どもが占めており、教育体制は追いつくことが出来ません。東南アジア地域でのカンボジアの5歳以下の子どもの死亡率は最も高く、安全な水や食料・医薬品などの確保が充分で無いことを裏付けています。HIVエイズ、家庭内虐待、性的搾取と人身売買、危険な児童労働など、深刻な問題が山積しています。

そうした中、チャイルドケアセンターの役割は、現実に即した対処的なものに留まらず、解決への試みとして大きな意味を持つものと思われれます。

今回新たに「とうぶランチ」が支援に加わったので、現地を訪れ、今後の展開を含めて調査してきました。

1999年に資金提供して、CCN(コミュニティ協同組合ネットワーク)の敷地の中にセンターを設立して4年が経ちました。当初からの3名は今やリーダー格として、子どもたちの学習を手伝ったり、英語を教えるなど活躍していました。現在20名の子どもたちと寮母さんが共同生活をしています。

マネージャーのサレットさんは、「子どもたちは自分でスケジュールを立て、実行している」と話し、仏教

倫理に基づいた理念を厳しさとやさしさを持って育てている様子がうかがえました。今後、自立した生活をしていくための技術研修や職業訓練などができるセンターの設立が必要になっています。

カンボジアの今日

昨年11月にプノンペンでASEAN首脳会議が開催されたため、街は整理され、都市化が進んでいます。一方でゴミ捨て場は大きな山となり、のどを突き刺すような煙の中、多くの人々が生活していました。1月29日に発生した反タイ暴動の傷跡はまだ生々しく残っています。タイ資本や華僑経済は活発で、いたるところで漢字の看板が目につきます。7月には国民議会選挙が行なわれますが、「お祭り選挙」は終焉し、「どうせ投票しても何も変わらない」という国民の選挙離れが進んでいるとも聞きました。

復興から10年、世界各地で紛争が起きる中で、カンボジアこそ「平和」に向かっているという期待感がありました。しかし、市場経済導入は経済格差を大きく広げ、働く場のない若者や十分な収穫のない農民の不満を募らせています。7月の選挙に向けて予断を許さない状況があります。

あのゆったりした豊かな時間と、人々の温かさや陽気な笑顔が、壊されることのないようチャイルドケアセンターを通して、子どもたちの未来を支えていきたいと思いました。

カンボジア王国基礎データ



面積：18,1万km² (日本の約2分の1)
 人口：1163万人 (1999年推定)
 民族：クメール族90%
 主要言語：カンボジア語 (クメール語)
 宗教：上座部仏教95% その他5%
 識字率：全体35% 男48% 女22% (15歳以上で読み書き可能) (1990年推定)
 首都：プノンペン
 独立年月：1953年11月 (フランスより)
 政体：立憲君主制下の多政党による自由民主制 (1993.9~)
 自然環境：国土の90%がトンレサップ川とメコン川の集水域にあり、広大な平野が広がっている。

チャイルドケアセンターの愛らしい子ども達

カンボジアチーム 佐々木 慧子

3月20日ついにイラク戦争が始まった。おまけにへんな肺炎騒ぎ、周囲の人の「行くのをやめたら…」「本当に行くの大丈夫…」の声に送られて3月25日、カンボジア、バタンバンにあるチャイルドケアセンターの子ども達に会うために出発。

NGO「るしな・こみゅにけーしょん・やぼねしあ」(以下るしなと称す)と協力して地球の木ほくぶプランクの支援で1998年に設立されたチャイルドケアセンターは、3人の孤児から始まった。2000年より地球の木のプロジェクトとして支援を続けてきた。現在は20人を収容、施設も増築し、子ども部屋6室、シャワー室やトイレも整備されてきた。私達とうぶランチも2002年度から支援に加わった。

1年間学習会を度々開き、今までの経過と現状を勉強し、少しでも支援金を多く出せるようにと、各種のイベントやバザーに参加してきた。

チャーロウアップルダイのセンターの子ども達は、礼儀正しく合掌しながら恥ずかしそうに挨拶してくれた。地球の木は3人の子の里親になっている。バン・ソッキーヤ (16歳 男)、バン・ソッチャイ (15歳 男)、バン・サッカナー (13歳 女) の3人兄妹である。この子たちを特に可愛らしく思えるのは親バカかしら…。

寮母さん達は仏教に基づいた教育で子ども達に接し、信頼関係も良いとのこと。また子ども達は学校の成績も良くリーダー格らしい。

これからの問題は中学を卒業した子ども達をいかに自立させるかということである。職業訓練も必要であろうし、各自の適性も考えねばならないだろう。今「るしな」ではシェムリアップに職業訓練施設の建設の計画を進めている。地球の木もこれを支援できるか検討している。

帰る時に私達をじっと見つめる里子や、子ども達にうるうるしてしまった。



地球の木の3人の里子

㊦ ソッキーヤ ㊦ サッカナー ㊦ ソッチャイ



私たちの蒔いた種は育っていた!

ネパール・チーム 乳井 京子

デブラニがお母さんになりました
中央はニルマラさん

1990年の民主化以来、ネパールでは諸外国、国際団体、NGOによって様々な開発支援活動が行なわれてきましたが、その恩恵が一部の権利者にしか届かず、未だネパールは最貧国の一つに数えられています。失政によるインフレと貧富の差の拡大、役人たちの汚職はマオイスト（毛沢東主義者）と呼ばれる一派の進出を容易にしました。各地でマオイストと政府軍の衝突が起こり、2001年11月ついにネパール政府は「国家非常事態宣言」を発令し、マオイスト掃討作戦を展開しました。支援地カイラリ郡では集会はもちろんのこと、夜間出歩くことも禁止されたため、識字教室は教師トレーニングの段階で打ち切らざるを得ませんでした。この度、「アユスNGOプロジェクト評価支援」より助成金を受け、3月19日から26日まで2年半ぶりにSOARSのニルマラさん、シュレスタさんと極西部へ調査に行ってきました。

「マオイストと政府軍の双方に対する恐怖心が人々を苦しめており、このトラウマを取り除くことが先決である」という現地からのメールを読んで私たちは心配していたのですが、今回ニムディ村で会った人々は予想に反して、とても元気でした。このような八方塞がりの状況にもめげず頑張っている人々がいたことは大きな喜びでした。

支援の成果は?

ニムディ村で5年間の支援の成果に関する聞き取り調査を行ないました。リーダーたち、村の人々、それに遠くの村に嫁いだデブラニとデブラニの先生ラクシュミまでやって来て、活発に意見を述べ合いました。

「識字教室と意識改革は村人たちの行動を変え、生活を改善し、あり方を変えるほどの大きなインパクトをもたらしました」とローカル・スタッフのアルジュン。「女性の地位が非常に向上しました。地球の木の支援は本当に望んでいたもの、参加してよかった!」と女性たちは声を大にして言いました。

中でも、最も感動的だったのは、貯蓄グループの人々の話でした。戒厳令で集会をもつことすらできなかった4ヶ月の間、約束の10ルピー（16円）を毎月こつこつと貯金し、非常事態宣言が解除された時、手に手に40ルピーを持って集ったのだそうです。ニムディ村には男女各2組ずつ20人規模の貯蓄グループがあって、月1回のミーティングでは、貯蓄のほかに衛生・栄養・健康などの話し合いを行なっています。ローンの使い途は、主に農業関係ですが、冠婚葬祭や病気などで緊急に金が必要となった時や子どもの教育にも当てられます。

野菜つくりにトレーニングを受けた人々はかぼちゃ・トマト・豆類・なす・ねぎ・カリフラワー・インゲンなどを畑に植えました。「食卓が豊かになり、家族の栄養状態がよくなった」と誇らしげに畑を案内してくれました。余剰野菜は市場に持って行って売り、収入を得られるようになった人たちもいます。苗木を売るビジネスを始め成功しているカマイヤ（農奴）出身の人もいました。



パパッドは売れるかな?

ネパール王国基礎データ



面積: 14.7万km² (日本の3分の1)
約80%が山岳丘陵地帯
人口: 2192万人 (1995年)
首都: カトマンドゥ (奄美大島と同じ位の緯度)
気候: 高山の局地気候から亜熱帯気候まで変化に富む
公用語: ネパール語 (36を超える民族言語があり、少数民族の多くは文字をもたない)
宗教: ヒンドゥー教87%、仏教8%、イスラム教4%
平均寿命: 男54歳 女53歳 (1990~1995中位推計)
乳児死亡率: 99/1000人
識字率: 54% (2002年国勢調査)
平均年収: 200ドル (1995年)

裁縫トレーニングの参加者たちは、それぞれが習得した技術を活かして洋裁店を始めた、仕立て屋に勤めたり、内職をしたり、家族や親戚の衣類を縫ったりしていました。アルジュンの妻、パクパティはさすがに積極的です。市場に行って「布地を用意してくれれば仕立をします」と

交渉し、仕立代を稼いだそうです。「とてもうまく縫えている」と褒められたと得意げでした。

コミュニティー・センター建設は、派手な動きをするとマオイストの関心を惹くので、未だに完成をみてはいませんが、最近移住してきた元カマイヤの子どもたちの教育のために午前中だけ貸しています。

随所に内戦の影響は見られたものの（今回は、大規模な集会をしたり、村に泊まったりは危険なものでせんでした）、人々の表情は明るく、女性たちは元気で、よく発言します。「私がリーダーになるので、私たちの村でも識字教室やトレーニングをやってくださいよ」とまくし立てるラクシュミは、シュレスタ教授とも対等に話をして、輝いていました。

イマドール (人材育成センター周辺)

カトマンドゥの郊外イマドールは、比較的平穏な地域です。ニルマラさんが12歳の時から20余年にわたって活動を続けてきた土地だけあって元気な女性グループが多いです。地球の木の支援により野菜農家の女

性のためのトレーニング、NGOリーダートレーニング、収入創出のためのトレーニングなどが開催されていますが、まだ軌道に乗っていません

頼もしいユースクラブ

ニルマラさんの姪たち青少年が中心となって結成したユースクラブは12月より活動を始め、図書の出しなども行っていました。成人女性を対象とした識字教室の運営も計画中です。活動拠点ができたことにより、これまで温めてきた夢を実現しようとしている真摯な姿が印象的で、「第2のニルマラ誕生」が地域を動かす原動力となることが期待されます。

調査で分かったこと

極西部は状況さえ回復すれば、村の人々は支援の再開を待ち望んでいること。「他の大きなNGOに比べ、地球の木の支援額は小さいが、家族のように心が通い合っていて、心の底から湧き出す熱い気持ちがあり、持続性があること。対応が早いことなど」をSOARSは高く評価してくれました。今回の調査でショッキングだったのは、SOARSが請け負っている養蚕プロジェクトが打ち切られたため、カトマンドゥのスタッフたちが報酬をもらえなくなり、生活に窮している人がいることでした。スタッフの必要経費も考慮に入れて支援を行なっていかなければいけないと思いました。プロジェクトを続けていくための必要経費の見直しをすると共に人材育成センターを活用したSOARSの自立支援を行なっていかななくてはなりません。

地球の木のネパールプロジェクトが、女性たちに真の自立をもたらす支援になるよう力を合わせていきたいと思っています。

フィリピンから

ついに犠牲者まで…

ツبران農場での2002年度の研修は地域における実践に重きをおいて実施されました。農業試験場での研修を終え、それぞれの村で実践している人々を対象に、米の有機栽培、種子銀行、キッチンガーデン、傾斜地農法、土壌保全など、各々の土地にあった農法の指導を、村々を周って行いました。各農園により農法に違いがあったり、人間関係などさまざまな問題があるようですが、やはり、現場での指導の効果は大きいようです。

フィリピンの地主たちが次は我が身かと成りゆきを注目しているエスペランサ農園（PAP21支援地のひとつ）で緊急事態が起こりましたので、前回に引き続き報告します。

アロヨ大統領が農地改革省に土地割り当てを直接指示し、3月6日、やっと耕作の許可を得た農民組合のメンバー100人が、割り当てられた農地に入って耕作を始めようとした矢先、地主側の私兵により銃撃を受けて1人が死亡、2人が重傷を負うという最悪の事態が起こってしまいました。警察官が現場に配置されていたにもかかわらず、ジョニーは殺されてしまったのです。ジョニーは亡くなる前夜「これでやっと子ども達に残してやれる土地が手に入った」とうれしそうに言っていたそうです。



ジョニーの葬儀に参列した人々

事件の背後で銃撃を指示したと考えられるケッチー・ベネディクト（エスペランサ農園の元地主）と農園責任者に対し、政府人権委員会は殺人および殺人未遂共謀罪で告訴しました。

地球の木はすぐにアロヨ大統領あてに「事件の早急な対処を求める要請文」を送りました。

これからも、農民の生活を改善し、子ども達が学校に通えるよう支援を続けていきます。

（フィリピンチーム 石川美恵子）

ラオスから

自分たちの農業を守る



ラオスでは国民の90%が農業を営んでいます。支援先カムアン県では年間を通し、村人たちは米や野菜、果

実などを収穫しています。そして化学肥料・農薬や遺伝子組み換え種を使わず、古い昔から伝えられてきたラオスの自然農業のやり方を大切に守っていくことをめざしています。

しかしその一方では、企業が使用効果や生産性の向上などのメリットだけを説明し、農薬と種をセットにして訪問販売で村人たちに広めようとしています。村人が高い価格の農薬を購入すれば、結果的にはローンをかかえることになり、もっと生活が苦しくなってしまいます。また農薬を使用することで、土地が枯渇し長期的な農業経営に悪い影響を与えてしまうことにもなります。

そこで、私たちは今年度も引き続きワークショップを開き、村人たちが農薬を使うことで起こってくる弊害を学び、自分たちで考え、適切に判断できる力を養えるようにしなければならぬと思います。また、伝統的な農業技術としてどのような方法があるのか、もっと知るための調査を行います。

さらに、村人たちが森林資源の重要性を再確認するために、キノコやたけのこ、薬草など資源の利用方法や利用量を村人と現地スタッフが、1年かけて調査を行う予定です。

（ラオスチーム 飯田信子）



北朝鮮から

毛布をありがとうございました



アンピョン郡の子ども

「KOREA子どもキャンペーン」は、昨年12月初めに緊急支援「台風被災地に毛布を送ろう」の募金を呼びかけ12月末には500枚の毛布を、北朝鮮の東海岸へ送ることができました。

毛布は、新潟港から万景峰号にて元山へ送られ、江原道（カンウォンド）の洪水対策委員会と被災地の安辺郡（アンピョンクン）の関係者によって江原道安辺郡ピサン里を中心に250枚、通川郡の被災世帯に250枚が配布されました。これらの事は3月中旬に現地を訪れた^{*}MeRU（日本医療救援機構）が確認し、詳しく報告してくれました。厳寒の中での毛布支援に対して「地球の木」への厚い感謝の意も伝えられました。3月中旬とはいえ、現地は解け始めた雪のため地面が緩み、車がスリップして、移動が大変だったそうで、厳しい気候と輸送の難しさを痛感します。



毛布の他に支援第2弾として、4月末から食料配布に訪朝することを計画していましたが、SARS（重症急性呼吸器症候群）の影響で延期となりました。北朝鮮では4月、5月は、秋の収穫と春の収穫の端境期に当たるため、特に食糧事情がきびしい春窮の時期です。国際情勢も緊張する中、子どもたちの状況がとても気になります。

（KOREA子どもキャンペーン 筒井由紀子）

***MeRU** 昨年11月「KOREA子どもキャンペーン」の「太陽光発電支援プロジェクト」は、「地球の木」を含む代表団が現地を訪問し、無事設置作業を完了しましたが、MeRUはその際同行したNGOです。

活動日誌（3月～5月抜粋）

- | | |
|----------|-------------------------|
| 3月 8日 | 国際ボランティア団体パートナーシップへ講師派遣 |
| 10日 | 富士見学園へ講師派遣 |
| 15日 | 市民フェスタに参加 |
| 16日 | 港南国際交流ラウンジまつりに参加 |
| 19日～26日 | ネパール現地調査 |
| 20日 | WORLD PEACE NOWに参加 |
| 25日～4月1日 | カンボジア現地調査 |
| 4月26日 | カンボジア調査報告会 |
| 5月 1日 | 北陽中学校へ講師派遣 |
| 10日11日 | あーすフェスタに参加 |
| 17日 | なんぶ総会、ネパール調査報告会 |
| 25日 | 第4回総会、アンニャライト コンサート |



マジカルバナナ改訂版 この夏パワーアップして再登場!

この事業は、かながわ民際協力基金助成を受けています

地球の木オリジナル開発教育教材「マジカルバナナ」は1999年の発売以来、小・中・高の学校で、地域で、また生協の学習会等で、多くの方々に使って頂きました。今回、1000部完売に伴い、多くの貴重な現場の声を生かして、更に楽しく、使いやすい改訂版を作っています。ゲーム性を高めたカードゲームや豊富な写真資料、最新のデータ等が入っています。子どもから大人まで以前にも増して多くの方々にバナナから見えてくる世界を体験していただけます。小・中・高校の総合学習で、地域の社会教育で、また子ども会やご家庭でも使ってみませんか。



マジカルバナナのねらい

- 身近な果物バナナがどこでどんなふうにも、そしてどんな人たちによって作られているのかを学びます。
- 日本の消費者である私たちの「買う」という行動が世界とどのようにつながり、どんな影響を与えているのかに気づき、考えます。
(開発教育チーム 中野真理子)

「地球の木会員アンケート」 応募当選者の発表

第13号会報で会員の皆様にアンケートにお答えいただきました。ご協力ありがとうございました。

抽選の結果、次の方々にアジアのグッズをプレゼントいたします。

佐藤明美さん(藤沢市)・力丸 剛さん(横浜市)
水崎郁子さん(大磯町)・佐藤幸子さん(川崎市)
田中万里子さん(茅ヶ崎市)

地球の木わくわくワークショップの体験

日時 7月26日(土) 13:00~16:30
場所 (財)横浜市国際交流協会 ルームA
(中区山下町産業貿易センター9F)

「マジカルバナナ改訂版」「世界がもし100人の村だったら」のおひろめワークショップです。夏休み中ですので、是非お子さんも一緒にご参加ください。

ホームページでも会報誌を公開

前号(第14号)から「地球の木」のホームページでも会報の公開をいよいよ始めました。

ひとりでも多くの方が私たちの会報を読み、興味をもち活動に参加してくれることを願っています。「地球の木」のアドレスは
<http://homepage1.nifty.com/EarthTree>

カマル・フィヤルさんによる 参加型ワークショップ

日時 7月19日(土)~21日(海の日)
場所 未定

ネパールのカマルさんは、国際的に活躍されている開発ファシリテーターです。その温かな人柄は、集まった人たちが自然に仲良くなれる空間を作り出します。

ネパールの農村などで行われている参加型ワークショップを通して、自らが持つ力をいかに活用して問題解決のための計画を立てていくかを学びます。

地域活動や学校の総合学習にもヒントを与えてくれるワークショップです。

企画に参加したい人募集中。

詳しくは事務局、またはホームページへ

ボランティア募集! 発送作業、イベント手伝いなど

地球の木とは、

地球上のすべての人々が自然と共存し、人が人らしくあたりまえに生きていくことが出来るように、地域と地域を結ぶ国際協力活動を行ない、相互理解を深める社会教育活動を通して、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立した生き方を創造することを目的としています。

事務局よりお願い

- 転居される場合は新しいご住所を必ずご連絡下さい。
- 会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。